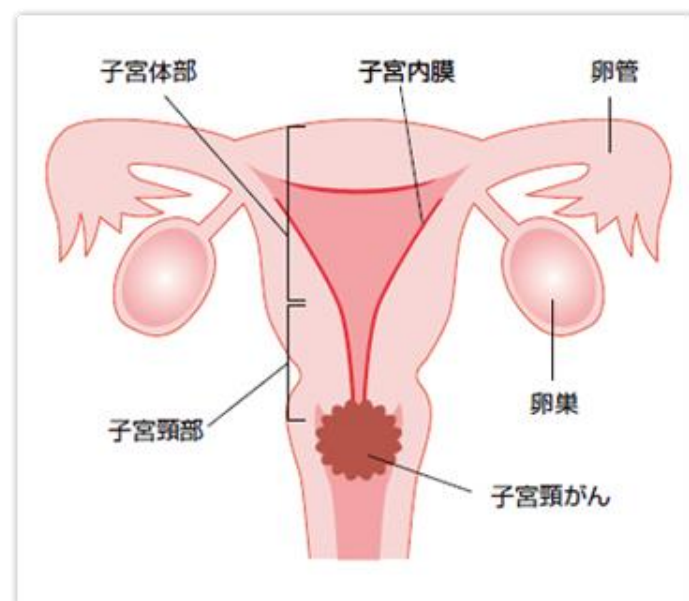


# 自己採取による HPV 検査を実施できます

子宮頸がんは、主に性交渉により HPV に感染することで発症します。近年、1000 人に 1～2 人の割合で子宮頸がんになる人がいます。HPV 感染者の子宮頸がん発症リスクは、HPV 非感染者の 400 倍以上といわれています。

子宮頸がんの原因、ヒトパピローマウイルス（HPV）検査と子宮がん細胞診を併用することで、細胞の異形性を含め、子宮頸がんの発見率を上げることが可能となります。

また、やむを得ず自己採取による細胞診検査を実施する場合、婦人科医師による細胞診検査と比較して精度が落ちるため、それを補うためにも HPV 検査の併用は有用と思われます。



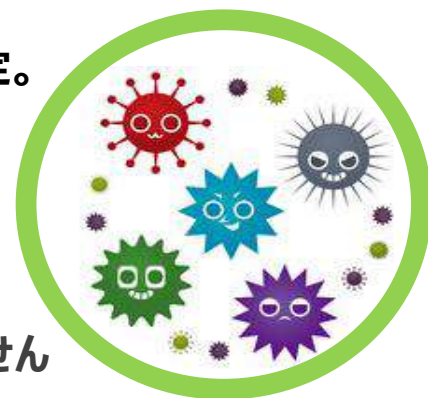
## 細胞診

子宮頸部から採取した細胞の「形」を顕微鏡で調べます。がんの発見率は高いですが、前がん病変の発見は約 30%の見落としがあると言われています。



## HPV 検査

ウイルス感染の有無を判定。採取した細胞中の HPV の存在を直接調べるため非常に精度が高い検査です。※ウイルスの型の判定はできません



## 細胞診と HPV 検査を併用するメリット

- ①がんになる前（前がん病変）の段階でほぼ確実に見つけることができます。
- ②前がん病変で見つけることができれば、子宮を残して治すことができます。
- ③将来がんになるリスクも分かります。

問合せ  
お申込

対象者：子宮がん検診を受診される方（HPV 検査のみは不可）

費用：お問合せ下さい

聖光ヶ丘病院 2 階 健診センター 04-7171-5801（直通）

お電話または健診センター窓口にてお申込下さい

